

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	高品質牛増進事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	農業課		包含する細々目	1	6	1	6	11	6	0	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動												
実施区分	18終了	会計	一般会計	環境調整会議	不要	地域経済活性化プログラム2007							
		事業期間	16	年度～	18	年度	関連計画 条例等						

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	肉用牛飼育農家 乳用牛飼育農家	繁殖和牛飼育農家(戸)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			50	50		
	畜産農家(乳牛飼育農家・戸)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度			
		40	40			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	優良和牛を生産してもらう 乳量拡大・乳質向上をしてもらう	優良繁殖和牛導入数(頭)	18目標	20	最終目標	100
18実績			20	19目標		↑
23目標		20	23実績		最終目標達成年度	
優良乳牛の導入頭数(頭)		18目標	10	最終目標		
	18実績	0	19目標		↑	
	23目標		23実績		最終目標達成年度	

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	肉用牛の品質向上を目的に肉質のよい繁殖和牛を地域に残し、優良子牛を産出させる。 乳用牛は乳量・乳質のよい系統の乳用牛を継続して導入し、地域内の牛のレベルアップと斉一化を図る。 優良子牛の導入・更新は、収入に至るまでの育成期間が肉牛で2年を要するため、高額投資が難しいのが現状。このため、各種補助を導入し、JAが基金造成をし、農家に貸し付けることにより、農家の優良子牛導入時の初期負担を軽減させ、高品質な牛群の維持・整備を図る。	18年度の実績 19年度計画 国庫補助から指定助成事業による導入に変更。 ・肉用牛群整備事業 ・高品質乳用牛群整備事業	・繁殖和牛優良素牛の導入頭数(頭) ・優良乳牛の導入頭数(頭)	20 0

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		0
	一般財源		0
事業費計(A)	0	0	
人件費	正規職員所要時間	18年度 4	19年度 0
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	14	0
	トータルコストA+B	14	0

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	出荷額等を高める活動をする	既存農業者の産出額(農業):億円	現状値	119.3	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	139.1
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
肉用牛群整備事業:市場流通の中で肉用牛の資質向上が求められている。 高品質乳用牛群整備事業:出荷する牛乳が量だけでなく、乳質が求められるようになってきている。	肉用牛群整備事業 BSE発生による畜産物の価格下落により畜産農家の飼育意欲が減退、また、消費者のニーズが多様化し、地域の特色ある肉用牛が求められている。 高品質乳用牛群整備事業 出荷する牛乳が量だけでなく、乳質が求められるようになり、乳牛にも負担が掛かるため、高齢の牛は淘汰され、更新サイクルが短くなってきている。	議会一般質問でも、優良素牛の地域への保留や、地域ブランド化を推進すべきとの意見があった。

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 余地がない (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) <input type="checkbox"/> 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) <input type="checkbox"/> 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) <input type="checkbox"/> 必要ない (その理由)		効果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 不可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) <input type="checkbox"/> 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	国・県による補助事業から指定助成事業に変更となったため、当事業については発展的に終了する。 18年度 実施年度 具体化
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	農業団体が事業主体となり、独立行政法人農畜産業振興機構の地域肉用牛振興対策事業を導入し、牛群整備を図る。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	<input type="checkbox"/> 必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	